

## LPガスCP速報(2021年9月積)

### 1. 9積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **665**  $\text{ドル}$  (前月比+ 5  $\text{ドル}$ )

ブタン **665**  $\text{ドル}$  (前月比+ 10  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が乱高下するなか、LPガス需給は、新型コロナ感染拡大による需要減退懸念があるものの、中国、韓国、インド、ベトナム等の石化需要が堅調、一方、サウジはガス分留装置の不具合により9月の供給を削減、米国積みはパナマ運河での滞船、キャンセルもあり、需給タイト感が強まった。LPガス市況(極東CFR)は、原油市況に引きずられ、第3週にプロパン680  $\text{ドル}$ 、ブタン675  $\text{ドル}$ まで下げたが、第4週には反騰した。

米国プロパンは、輸出が堅調、高水準が続いている。全米プロパン在庫は増加しているものの、直近で前年同期比76%に止まり、5年平均レンジのボトムに(グラフ②)に張り付いたまま。穀物収穫乾燥期を控え不安材料。米モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況推移と乖離がみられ、第3週に597  $\text{ドル}$ に達し、月平均では前月比10  $\text{ドル}$ 上昇の580  $\text{ドル/トン}$ どころとなった(グラフ①)。米輸出業者の不可抗力条項発動や買戻しの動きなど、米国高依存度のリスクも見えてきた。

フレート市況は、中東市場で傭船需要が増加し船舶余剰感が解消、インド国営石油からの引き合いもあり市況は強含み。米国積(FOB)は極東着(CFR)の価格差縮小やパナマ運河滞船コストもあり採算が悪化、傭船需要減退で上値を抑えている。

ナフサは原油価格に連れ安となり月初の695  $\text{ドル}$ から第3週末には610  $\text{ドル}$ まで下げた。月間平均は654  $\text{ドル}$ どころで、前月比29  $\text{ドル}$ の反落。

バンカーオイルも原油市況に追随して推移、シンガポールIFO380は月間平均で前月比6  $\text{ドル}$ 安の418  $\text{ドル}$ どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同26  $\text{ドル}$ 下げの568  $\text{ドル}$ どころ、両油種の格差は150  $\text{ドル}$ に縮小した。

9月CPは前年同月比プロパン300  $\text{ドル}$ 、ブタン310  $\text{ドル}$ それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン5、ブタン6ポイントそれぞれ上昇、前年同月比ではプロパン14ポイント、ブタン20ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	44	47	44	45	45
CP先物指標：P	660	680	645	670	664
CP先物指標：B	655	675	640	670	660

#### ② 原油市況等

8月の原油市況をみると、上旬は経済回復期待、欧米株価の上昇に支えられWTIは堅調に推移したが、中旬には2019年以来となる7営業日続落で3ヶ月ぶり62.32  $\text{ドル}$ まで下げた。新型コロナデルタ株の感染拡大が収まらず、IEAが需要見通しを下方修正するなど需要減退懸念が強まった。下旬には、米原油在庫が減少し2020年1月以来の低水準で過剰在庫が解消、ガソリン在庫も需要回復で減少し原油市況は反騰した。また、FRB議長講演でテーパリング(資産購入段階的縮小)懸念が和らぎ株価が最高値を更新、ドル安もあって商品市況を下支えした。29日にはハリケーン「アイダ」がカテゴリー4でルイジアナ州に上陸、メキシコ湾岸の石油施設の95%が閉鎖、大規模停電で製油所も操業停止を余儀なくされており、被害の影響長期化が懸念される。一方、中東情勢は、オマーン沖での石油タンカー攻撃を巡る緊張(イスラエル：イラン)、アフガニスタンからの米軍撤退とタリバン政権による混乱など地政学上のリスクも高まっており、当面ボラティリティが高い状況が続くとみられている。

○8月積みアラビアン・ライト(8月1~30日までの想定)は72.05  $\text{ドル}$ (前月比-2.66  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン590.74  $\text{ドル/トン}$  ブタン582.63  $\text{ドル/トン}$

AL比 プロパン112.57% ブタン114.14%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

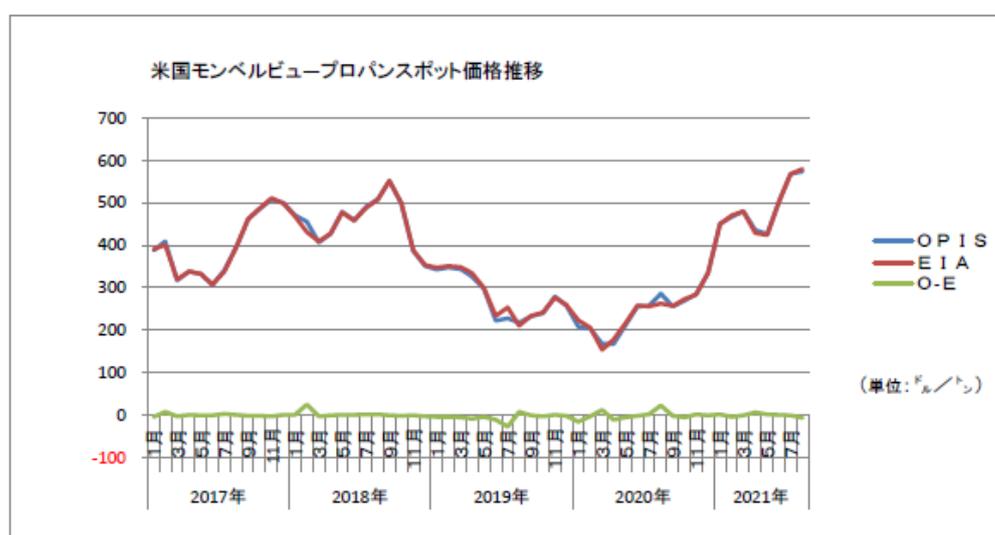
## 2. 2021年9月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	110.88	79,800	79,500	80,600	+2,100	+2,100	+1,700
②末日締め	110.85	73,400	73,200	74,100	+2,200	+2,200	+1,800

\*TTS平均について、①が7月21日～8月20日、②8月1～31日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは8月27日までの価格を基にEINで試算（578<sup>ドル</sup>/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米MBプロパンスポット価格推移



### ②全米プロパン在庫推移

